

令和3年度 学校評価表

学校番号	18	学校名	長野工業高等学校
------	----	-----	----------

**学校教育目標** 自らの人生と新たな社会の創造に誠実に努力する人を育てる。

**学校重点目標** 【高校生の人格を磨き、可能性を最大限伸ばさせるために、次の目標を推進する】  
 ○普通科と専門科の両方の学力を伸長する。  
 ○5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を軸に、基本的生活習慣や礼節を養う。  
 ○生徒個々の可能性や能力を最大限伸ばし、自己実現をサポートする。  
 ○いじめや体罰を許さない安全安心な学校づくりを推進する。

評価基準：A 十分満足している B 満足している C 不満足である

評価対象	評価項目	評価の観点	評価	成果や次年度への課題（概要）
学習指導	教育課程	・新高等学校学習指導要領改訂に伴い、要点を押さえ、観点別評価を踏まえたシラバスを作成する。	B	令和4年度入学生のシラバス作成に当たり、文部科学省等から発行されている資料を周知し、3観点を示して作成できた。新シラバスの書式は改訂したが、次年度以降も検討する。
	学習指導	・基礎学力診断テストや定期テスト結果を分析することで学力実態を的確に把握し、基礎学力の着実な定着を図るための対策を講じる。 ・GIGAスクール構想を見据え、ICTを活用した授業改善を提案し推進する。 ・生徒の「主体的・対話的で深い学び」が授業でなされるよう、教員の指導力向上を図る。	B	・「基礎力診断テストの係独自の分析」、「ベネッセ担当者と1・2学年担任団との分析会」を行った。ベネッセからのアドバイスをもとに、各教科で基礎力診断テストへの対策を講じ、2学年では偏差値平均を上昇させることができた。 ・ICTを活用した授業の提案はできなかった。次年度は、とりあえず「端末を使ってみる」ところからになるだろう。 ・公開授業では、教職員にも授業を見合うよう案内した。既存の業務を削減しないまま、研修や研究授業等新たな業務を増やすことは避けたい。
	キャリア教育	・地域の企業と連携し、インターンシップ(就業体験)を推進することで職業観を育成するとともに、キャリア教育のより一層の充実を図る。そして、地域を担い世界に貢献できる人材の育成に努める。 ・産業界、支援機関との懇談の機会を増やし、連携の強化を図る。 ・高大連携をさらに推進し、先端技術の理解と学びの姿勢の向上、プレゼンテーション力のスキルアップを図る。 ・コミュニケーション能力や情報活用能力の育成を図る。	B	・インターンシップにおいては、コロナ禍の影響で実施が心配されたが、地域企業の協力で実施することができた。参加生徒174人、企業のべ94社に協力を頂いた。 ・信州大学工学部との「高校生研究室体験プロジェクト」に機械工学科、電気電子工学科、情報工学科、物質化学科、土木工学科、建築学科の生徒が参加し、各々が連携する学科の研究に取り組んだ。また、諏訪東京理科大学との連携では、電気電子工学科、情報工学科の生徒たちが研究に取り組んだ。いずれも最先端の研究に参加できる機会が得られた。
	資格検定等	・各種コンテスト・資格取得・技能検定に積極的に取り組めるよう、案内や指導助言の充実を図る。	B	・専門性を生かした資格取得、技能検定などの生徒の取り組みを進めた。コロナ禍により試験・講習会が中止となる状況のなか、できる限りの開催努力を行った。
進路指導	進路実現	・生徒・保護者の要望にそった進路情報の提供と、生徒自身の目標・能力・適性に応じた進路が実現できるよう、適切な指導・助言を行う。	B	卒業学年の保護者への説明会を複数回設けて、進路指導方針等へのご理解とご協力をお願いした。進路情報の提供はその都度繰り返し提供することができた。来年度の成年年齢の引下げに対する方針の説明が不可欠である。
		・オープンキャンパス、インターンシップ等の校内では得られない体験を通じて、職業観の醸成や将来の生き方を考えさせる。また、この目的を充実させるために、コロナ禍により増加傾向にあるオンラインの企業説明会、学校説明会も積極的に活用する。	B	今年度もコロナ禍の影響があり、各種イベントが中止や日程変更が行われた。感染拡大防止の観点から主催者側の要請に応じたが、本来得られる情報が不足しないよう、可能な限り代替情報の提供を要請、提供を受けた。また、オンラインの活用については、個人への対応は滞りなくできた。しかし、複数人への対応には課題が残った。
		・生徒の進路実現のために学年進行に沿った系統的な指導を充実させるとともに、就職先・進学先の情報収集や研究、開拓等を行う。	B	ほぼ計画通りの指導ができたといえるが、その効果等適切な振り返りが今後とも必要である。次年度は、基礎学力のさらなる定着に向けて、関係教科との連携を深めたい。
生徒会	班・同好会活動の充実	・コロナ禍ではあるが、感染対策を十分に取ながら、生徒の学びを極力止めぬよう創意工夫し、生徒達の可能性や能力を最大限に伸ばせるよう班・同好会の活動を支援する。	B	各顧問の先生方のご尽力により様々な感染対策を講じたうえで、生徒たちが生き生きと日々の班・同好会活動に取り組むことができた。しかし、班に昇格できた同好会もある中で、活動がなく、同好会に降格してしまった班もあった。今後、継続できるかが課題である。
	自主活動への支援	・地域との連携を生徒会活動の重要な柱と考え、生徒が企画・運営に積極的にかかわる中で、自主性を育めるようサポートとする。また、生徒会の諸行事を通して、執行部を中心に全校生徒が創造性を発揮できるように支援する。	B	アモーレフェスタはコロナ禍で中止となってしまったが、イルミネーション設置など安茂里自治会と協力し合って行うことができ、地域との交流ができた。また、長工祭をはじめ、生徒会の諸行事を創意工夫しながら行うことができ、生徒たちにとって満足のいくものができた。ただし、LHRの中で生徒会の行事を行おうとすれば、休み時間10分で準備をしなくてはならず、時間が足りない。日課の変更等の工夫が必要である。
清美	清掃美化活動	・清掃活動が円滑に行えるよう清掃用具の充実等に努めるとともに、校内美化について意識の向上を図る。 ・ゴミの分別と資源化をすることで、ゴミの減量に取り組む。	B	・これまで可燃ゴミとなっていたシュレッターゴミを資源ゴミとして処理することで、ゴミの資源化と減量に取り組めた。 ・床拭き用レンタルモップの交換サイクルについて、ルール化が図れた。 ・長年放置されていた職員玄関(下駄箱上・傘立て)の整理ができ、校内美化の意識づけに繋げることができた。
生徒指導	安全安心な学校	・校内情報の共有化により、職員一致による協力体制を図り、安全・安心な学校作りを行う。	B	・全職員のそれぞれの立場での協力が得られ、貴重品の盗難やいじめ等の報告もほとんど無かった。次年度も恒常的に取り組んでいきたい。
	基本的生活習慣	・頭髪等の身だしなみをはじめ、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)や挨拶を励行すること、時間を守ること等の指導を通して、常識ある行動ならびに社会で通用する基本的生活習慣とマナーの確立を図る。 ・地域に信頼され、評価される長工生を目指す。	B	・担任を始め、全職員で遅刻を少なくすることを目標に取り組んできたことが功を奏し、例年に比べ、朝の遅刻がだいぶ減少した。 ・問題行動件数も、昨年度より減り、全体的に落ち着きがかもし出されている。 ・来年度は、登下校の自転車運転マナー遵守を更に徹底したい。
開かれた学校づくり	公開授業等	・公開授業や研究授業を実施し、地域や保護者の声に耳を傾けながら、授業改善や教員の指導力向上を図る。	B	・ICT機材を活用したリモート授業を実施し、授業内容の向上に取り組むことができた。 ・公開授業では、中学生を含め多くの方々に参加頂いた。
	広報活動の充実	・本校の教育活動を広く理解してもらえよう、学校案内・HPを充実させ、活気ある学校をアピールする。 ・報道機関への情報提供を積極的に行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図る。	B	・HP及びパンフレットの充実にも努め、広報活動に役立てた。 ・年間を通して新しい情報を各職員からアップできるよう工夫をした。 ・外部連携事業等についてはマスコミ各社に取材依頼を行い、新聞等を通して情報を発信することができた。
	PTA活動	・諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう連絡を密にする。 ・家庭との連絡を密にするためのメール連絡網については、会員のシステム登録者数を増やすことで実効性を高める。	A	・メール連絡網の登録率が100%に達している。 ・PTA総会はコロナ禍の影響があり通常開催ではなかったが感染防止対策をして行うことができた。連絡網の活用により迅速な学校保護者間の連絡体制がとれている。
	生徒募集	・本校の魅力を伝えるため、中学校訪問や進学説明会等の企画および内容について一層の充実を図る。 ・中学生や保護者が本校の教育内容に興味・関心を持ち、本校受検につながるような情報発信を工夫する。特に、ホームページ掲載情報の更新・充実を進める。	A	・2年ぶりに中学3年生保護者説明会を実施することができた。学校説明会、体験入学は予定通り実施できた。 ・第1期中学校訪問(7月から9月)では、学校長と各専門科の生徒が中学校へ出向き、インタビュー形式によるPRを実施したところ大変な好評を頂いた。また、第2期中学校訪問(10月から11月)も積極的に訪問した。 ・ホームページ掲載では授業の様子や班活動の結果など最新情報の更新に努めた。